

蓮池 薫さんとの40分間 彼が語り続けた全内容

ある幸運によって、僕たちは蓮池薫さんと都内のホテルでじかに会うことができた。10月16日、帰国2日めの夕である。新潟県柏崎市の実家への帰郷を翌日に控えて、報道陣もホテルへの立ち入りは厳しくシャットアウトされていた。奥土祐木子さんと一緒の部屋で、蓮池さんはふとなごんだ表情もみせて語りつづけた。その40分間を、できるだけ詳しく再現したい。……そして、「白門祭」さなかの11月3日、蓮池さんから直筆のメッセージ「中大生のみなさんへ」が届いた。

【北朝鮮に拉致された中大生を救う会】

代表幹事 渡部一実 (法学部4年)

「直接、薫に渡してくれよ」

16日午後4時前、蓮池透さん（蓮池薫さんの兄）に会いに、僕は赤坂プリンスホテルに向いた（ホテル前でたまたま「救う会」初代表幹事の重城拓也さんと出会い、同行してもらった）。透さんから薫さんに、中大関連の品々を渡してもらうためだ。薫さんが中大に残っていた「足跡」を少しでも探し出して、それを本人に見てもらいたい。少しでも、中大を思い出してもらえれば。持っていた品物は、蓮池さんが中大生だった頃の写真や、当時の中大の写真・学生新聞、薫さんが所属したサークルの活動資料など。面識もない薫さんのところに直接押し掛けるわけにもいかない。透さんから薫さんに渡してもらうつもりだった。記者会見を終えた透さんをつかまえた。「直接渡してやってくれよ」。思いがけない透さんのこの一言で、僕は未だ見ぬ先輩・蓮池薫さんにはじめて会うことになった。

エレベータが、厳戒態勢の9階に止まる。フロアにはホテル

の職員が3人、廊下の至る所に公安関係者と思われる人が立っている。左手に進んで奥の部屋に、蓮池さん奥土さん夫妻の部屋があった。

「ご心配かけて……」

蓮池透さん おい。中大の後輩連れてきたぞ。開けてくれ。

（ドアが開く。蓮池さんと奥土さんが笑顔で向かえてくれた。部屋の中だというのに、二人ともスーツだ。胸には例の「金日成バッジ」と「プルーリボン」が付いている）

——蓮池さん、はじめまして。中央大学法学部の後輩で渡部一実とい

います。蓮池薫さん 蓮池です。はじめまして。ようこそ。

（テレビで帰国のシーンを見ていたが、やはり長身で痩せている）

透 渡部君たちはね、「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」という形で、お前の救出活動をしてきているんだ。

薫 そうですか、ご心配かけて申し訳ありません。



蓮池さん（左）と握手する。撮影は兄・透さん
（10月16日、都内のホテルで）

薫 まあ、どうぞ。お掛けください。
（ソファーに案内される。透さんが、
両親を呼びに行く。部屋には、蓮池
薫さん・奥土祐木子さん夫妻、兄・
透さん、父・秀量さん、母・ハツイ
さんと、僕ら2人。計7人になった）
薫 （祐木子さんに向かって）おい、
何か冷たいものでも出してやれよ

薫 「「そうですね」と祐木子さん
はごくふだんの感じで、ホテルの冷
蔵庫から、コカコーラやBOSS缶
コーヒーなどを出してくれた」
北のたばこ
「毒は入ってないから」
薫 たばこ一本どうですか。

（北朝鮮製のたばこを勧められた。
お互いに火をつけあって一服しながら……）

薫 よろしければ、1箱あげます
よ。毒なんか入ってないから安心し
てください（笑）

きょうは、蓮池さんに中大の
ことを思い出してもらおうと思って、
いろいろ持ってきました。懐かしい
と思いますよ。

（まず、蓮池さんが2年生まで学
んだ駿河台校舎の写真集『さような
ら駿河台』を手渡す）

薫 懐かしいな。ここが学食で、
ここが生協なんだよな。ああ、教室
はこんな狭かったつけ。

多摩校舎は覚えてますか？
薫 覚えてますよ。僕は1、2年
生の時が駿河台で、3年生次から多
摩に移ったんだ。僕は、3カ月しか
通わなかったけど。

あそこは、白くてみんな同じよう
な建物で。写真見てもどれがどれだ
か。当時は、多摩校舎の周りに何に
もなくね。本当に、山の上に作っ
たって感じだったな。タヌキとかへ
びが出るなんてよく言われてたよ。

——いまでも出そうですね（笑）。

（現在の多摩キャンパスの写真・
完成直後の多摩校舎の航空写真を見
せる。ちらっと見てすぐ手放し、『さ
ようなら駿河台』を手に取る。やは
り2年間学んだ駿河台校舎に思い入
れがあるようだ）

「懐かしい……覚えてるよ」
ノンポリの学生時代、同級生の顔

——そうだ、当時の学生新聞もあ
りますよ。「中大新聞」、読んでまし
たか？

薫 まあ、ちらっとはね。そんな
熱心ではなかったけど。

（「多摩移転」にちなんで、当時
の「中央大学新聞縮刷版」を見せる。
記事を探すと、大見出しで「多摩移
転をめぐる学内騒然」の記事があっ
た）

薫 ああ、こんなことあったね。
多摩移転の時は大変だったよ。反
対する学生がいてね、反対運動をし
てたよ。確か一人か二人ケガしたん
じゃないかな。とにかく大変なこと
だったよ。

——蓮池さんも暴れてたクチです
か？（笑）

薫 （笑）いやいや、僕なんかは

ノンポリだったから。

——中大校歌のCDも持ってきたんですけど、かけましようか？

薫 いや、僕は校歌知らないなあ。体育会系の選手とかならともかく、

普通の学生は校歌なんて知らないんじゃない。

（「中央大学広報」を渡す。現在の司法試験合格者数推移・氏名などが載っている）



水世婦先生（左）の中国語授業風景。最前列中央が蓮池さん（76年10月11日田雄策さん撮影）

——中大といえば、

司法試験ですけど、いまは合格者が80人足らず（ことしは104人に）。確か蓮池さんの頃は、東大と「赤門」―「白門」で競い上回るほどでしたが。蓮池さんも弁護士志望だったと聞いていますが、申し訳ありませんね、いまの中大生は不勉強で。

薫 いやいや。僕なんかとてもとても。やってても絶対受かんなかったと思うな。授業も何言ってるのかよく分かってなかったしな。司法試験は、法学部生なら誰でも一度は考

えるっていう程度だったからね。実際は、勉強そつちのけで麻雀ばかりやってたしね。

透 お前、ほんとに麻雀しかやってないな。

——でも、メチャクチャ成績良かったですよ。Aばっかりで、チラホラBがあるって感じてました。……すいません、プライバシーそつちのけで当時の成績表を見ちゃいました。

薫（笑）いやいや、人様にお見せ出来るようなもんじゃないですよ。恥ずかしいなあ。テスト前だけ、焦って勉強するっていう感じで、ふだんはホントに麻雀ばかりやってたから。——当時通ってた雀荘なんか覚えてますか？

薫 まあ、麻雀好きだったしね。いまの学生はみんな麻雀なんかするの？

——僕（渡部）はできませんね。透 いまの学生は、麻雀なんかしないよね。何やってんの？

——まあ、ファミコンじゃないですかね。テレビゲーム。

透 あと、カラオケとかかかえ。薫 カラオケは僕らもやったよ。

いまの子はゲームで一人で遊ぶの？

——ええ、一人でピコピコと。

薫 へえ……。――「大学生が一人で遊ぶ」ことに驚いているというよりも、「ファミコン」自体をよく知らない、そんな印象を受けた。当時の中国語クラスの写真を渡す。蓮池さんは右端に映っている。――写真・上

薫 おお、懐かしい。よくこんなあつたね。どこから持ってきたの？

——蓮池さんの同級生の月田さんが撮影したものですよ。覚えてますか？ クラスメイトだった月田雄策さん？

薫 覚えてるよ、彼はカメラが趣味でね。当時カメラ持ってる人なんていなかったしね。

（写真を指さしながら、クラスメイトについて次々に語り出す）

薫 おお、渡邊正直だ。彼とは仲がよくてね。野球も一緒にしてたんだ。後楽園球場にも良く行つたよ。

——蓮池さんが中大生の時は、王貞治がホームラン記録を作るとか作らないとか、そのころですよ？

薫 そうだったね、僕は巨人が好

きてね。

——じゃあ、今年の日本シリーズでも見に行ったらどうですか？ 面白いですよ。

薫 (笑) いや、僕が行くといろいろな人に迷惑がかかるから。マスコミとかいっぱい来るしね。

薫 國分もいるじゃないか。なつかしいなあ。

中国語読みで「リ्यूチー」

——この写真は、蓮池さんが1年生の時、中国人のスィ(水世娣)先生の中国語クラスの写真ですよ。覚えてますか？ スィ先生。

薫 覚えてるよ、優しい先生でね。日本語ができない先生なんだよね。だから出席を取る時、中国語読みで読むんだよね、蓮池薫を。確か、中国語読みでは「リ्यूチー」ナントカじゃなかったかな。きれいな名前だと褒められたよ。

——あと、中国語の先生で金丸先生、覚えてますか？ 蓮池さんはかなり嫌ってたようですけど(笑)。

薫 ああ、あの先生はね、厳しい先生でね、カンニング出来ないんだ

よね。辛かったな。あと、うちのオヤジに風貌が似ててね。こう、ほお骨がエラ張ってるんだよね(秀量さんを含めて、部屋中が大笑い)。

(もう一枚、蓮池さんが佐渡に旅行に行った写真を見せる。蓮池さんは「アドベンチャースキー部」に所属していて、その仲間と佐渡に行ったらしい)

透 そういえば、お前佐渡に旅行行ったことあったよな。

薫 行ったよ。おお、磯貝だ。佐渡に旅行行ったときは、磯貝たちには女の子が寄って来たのに、僕だけ女の子が寄って来なかったな。

(アドベンチャースキー部の資料を見せる)

薫 ああ、僕の名前もあるね。当時、野方(中野区野方)にある「ひばり荘」っていうアパートに下宿してたんだけど、塩沢君っていうのが野方に住んでたな。近くにね。杉野君と磯貝君は仲良かったな。塩沢君は確か学部違うんだよね、そうだ商学部だった。磯貝君は確か、学科が違って政治学科だったけな。

——当時の活動状況とか覚えてますか？

薫 僕はね、スキー用品を買う金が無くなつてね、2年生で辞めたんだよね。でも、活動は覚えてるよ。

——蓮池さんは、スキー、うまかったと聞いてますよ。

薫 いや、もつとうまい人がいたよ。僕は好きだったけど、特にうまいというわけじゃなかったと思うな。カッコつけて一番長いスキー板を買って、全然駄目だった記憶があるよ。

——顧問は哲学の木田元先生なんです。いまはハイデッガー研究の第一人者として有名です。

薫 顧問の先生には会ったことないな。僕はサークルの業務はほとんどしてなかったから。それと、部室が欲しかったな。僕がいた頃は部室がなかったんだよね、「家なき子」みたいなサークルだったよ。

——……いまありません。

透・薫 まだ無いの！
——(渡部は)サークル統一会議議長をやっているのですが、力不足ですいません。

(蓮池さんの学籍回復問題。中大は98年に、「蓮池さんの復学の意思が確認された場合、学籍回復を認め」旨決定している。今回、その旨

を記した中大からのメッセージを蓮池さんに手渡した。鈴木康司学長(02年7月31日付)・阿部三郎理事長(同9月13日付)の二通である)

「復学は？」

「……慎重に考えて……」

——蓮池さん、日本にこのまま住んで、中大に復学したい場合、中大はそれを認めますよ。一度除籍になったら、ふつう復学は認められないんですが、蓮池さんの場合だけは認めるそうです。学則の問題を含めて検討するよ。

透 中大に、学籍回復のお願いにいったら、前向きに検討してくれるとのことだった。お前、ありがたいだろ。

薫 いろいろとご心配をかけてすいません。

——蓮池さん、大学を見に行きたいという気持ちは？

薫 僕が行くといろいろな人に迷惑がかかるから……。

透 学長・理事長のこんなメッセージまで頂いて……。

薫 ご心配かけます。
(いまは、北朝鮮に残されている

子供の身を案じて、「日本にずっといたい」などとは言えない状況のだろう。ましてや「復学してもいい」などとは。「それ以上突っこんでくれるな」と、目が訴えていた)

——いまは、お子さんの身を案じてそれ以上は言えないですね。分かりました、無理しないでください。薫 いや、そんな深くとらないですよ(苦笑)。

(そろそろ、話題も尽き、帰りかける)

「本当に好意ありがたい」

渡部 なにか、僕たちにメッセー
ジいただいていいですか？

薫 ……。

透 せっかく来てもらったんだから、なにか二言三言じゃれば？

お前の救出活動をやってくれている人たちだぞ。

(しばらく沈黙し、やがてポツリポツリと言葉を選びながら、話し始める。僕はきちんとメモしようとしてノートを取り出した)

薫 皆さんが私のことをいろいろ考えて心配してくださった好意を本

当にありがたく思っています。心配されている学籍の問題は、慎重に考えてお答えしたいと思っています。

(あいさつ調に、「皆さんの成果を祈りながら。蓮池薫」と、言い添えた)

——ありがとうございます。

透 写真、撮っていいか？

薫 新聞とかでも大きく載ってるし、別に構わないよ。

(蓮池さんと握手しながら、写真を撮る。翌日の新聞などに掲載されたのはこのときのものである)

——じゃあ、そろそろおいとまします。これからいろいろ大変だと思えますが、体に気を付けて頑張ってくださいね。

薫 どうも、たいしたお構いもありませんで。渡部さんも頑張ってくださいね。

(午後5時すぎになっていた。祐木子さんとご夫婦一緒にドアまで見送ってくださいました。最後に蓮池さんと握手。写真のときも、このときも、僕は片手で握手した。ご家族全員の永住帰国が成ったとき、両手で握手したい。そう思ったからだった)

自筆

「中大生のみなさんへ」の

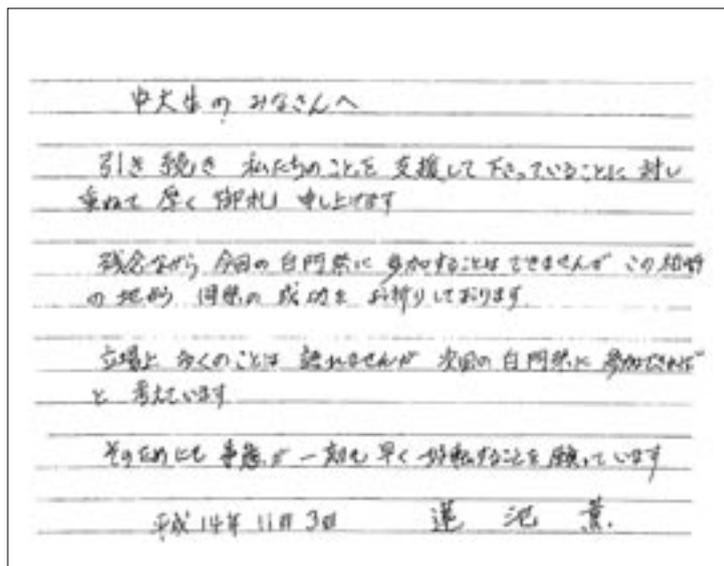
重み

「白門祭」のさなか、僕あてに FAXで送られてきた「中大生のみなさんへ」という自筆のメッセージは、16日夕の「……」の無言を埋めて余りあるものだった。

《引き続き私

たちのことを支援して下さっていることに対して重ねて厚く御礼申し上げます。残念ながら今回の白門祭に参加することはできませんがこの柏崎の地から同祭の成功をお祈りしております。立场上多くのことは語れませんが次回の白門祭に参加できればと考えています

蓮池薫さんの自筆メッセージ



そのためにも事態が一刻も早く好転することを願っています

平成14年11月3日 蓮池薫

僕は、「両手で握手できる日」を確信しつつ、

「立场上多くのことは語れませんが次回の白門祭に」

という言葉の意味と重みを、何度も反芻した。

「救う会」の一人として

代表幹事 渡部一実

「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」は、98年、中大生やOBを中心に結成された有志団体です。

98年という年は、北朝鮮による拉致被害者の中に、当時中央大学法学部3年生だった蓮池薫さんが含まれていることがマスコミで報道され始めた年でした。そこで、中大の後輩である僕たち学生が、何か支援活動が出来ないかということで結成されました。

現在でこそ、中大生拉致被害者「蓮池薫」という名前は多くの人が知っていますが、当時は、ほとんど誰も知らない状態でした。知らないだけならまだしも、一部の学生や教員からは、「拉致問題は、北朝鮮への敵対意識をおおるための右翼のデッチ上げだ」という心ない非難をあびたりもしました。

このように、周囲が理解を示しているとは言えない状況の中で、「中

大生を救う会」としては、とにかくより多くの人に蓮池さんの事件を知ってもらおうという方針で活動を開始しました。朝、早起きをして授業開始前の教室に忍びこんで机の上にピラをまいたり、学内にポスターを貼ったりしました。また、入学式・卒業式の会場に大きな横段幕を出したり、人の集まる節目節目をねらって情報宣伝を行いました。また、中大OB・OGの国会議員約50人にも手紙を出し、同じ白門の同窓生である蓮池さん救出のために協力を呼びかけたりしました。

同時に、蓮池さんの「学籍回復問題」にも取り組みました。蓮池さんは3年生時に拉致され、在学年限の8年までに戻って来れなかったため、中大を「除籍」扱いになっていました。暴力的に無理矢理「拉致」された。暴力的に無理矢理「拉致」された。学問を志し半ばで中断せざるを得なかった人に対して、規則とはいえず「除籍」は冷たすぎる、ということ、蓮池さんが無事生還し、もう一度中大で学びたいと考えている場合、「学籍回復」をして中大で迎え入れてあげて欲しいという運動です。

他には、白門祭での展示会、そし

て学内シンポジウムなども行いました。まず、蓮池さんのお兄さん（蓮池透さん）に、中大でシンポジウム（98年6月）をやっていたいただきました。

また、拉致問題に積極的に取り組んでいるジャーナリストの櫻井よしこさんをお招きして、講演会（00年12月）も開催しました。蓮池透さんや櫻井さんの話を聞いて、初めて蓮池さんのことを知ったという学生がほとんどでしたから、当時は、学生の拉致問題に対する関心は薄かったといえるでしょう。また、今年の5月に駿河台記念館で行われた中大OB会で署名活動を行った際も、ほとんどのOBが蓮池さんのことを知らなかったくらいですから、一般の社会人の方も関心が薄かったのではな

いかと思います。

今年の夏休みを利用して、新潟県柏崎市にある蓮池さんのご実家を訪問してきました。経費節減のため、夜行列車で0泊3日という強行軍です。

蓮池さんのお父さん（秀量さん）お母さん（ハツイさん）や、蓮池さんの柏崎高校の同級生と会い、演劇部で活躍した高校時代の話、野球部

で主将を務めていた中学時代の話、などを聞きました。また、蓮池さんが残していった中央大学関連の品々をみて、「同じ大学の先輩なんだ」という親近感がわくと同時に、24年という時間の重さとを痛感し、複雑な心境でした。

「急転直下」という言葉が初めて身に染みたのは、「小泉総理が北朝鮮に行く」という報に接した時です。今まで、地道に続けていた救出活動に、一筋の光明が見えた気がしました。小泉総理の訪朝で蓮池さんの生存が確認され、10月15日には帰国も果たしました。しかし、まだ彼の子供は平壤にいます。蓮池さんを含め拉致被害者とその家族を含めた永住帰国、「死亡」とされた方々の真相究明が果たされるまで、拉致事件は解決しません。

この認識を持って、これからも活動を続けていきたいと思えます。ご理解、ご支援の程、宜しくお願い致します。

「中大生を救う会」ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/WallStreet/Stock/2416>